

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.242

2013年7月

第54回名大祭「飛びだせしゃちほこ〜祭りの空へ〜」が開催される



目次

●ニュース

第54回名大祭「飛びだせしやちほこ～祭りの空へ～」が開催される	3
AC21国際スクーリングを開催	4
濱口総長が日緬官民会合に出席	6
濱口総長が全学教育科目「名大の歴史をたどる」で講義	7
全学同窓会関西支部第8回総会を開催	7
学術奨励賞授与式を挙行政	8
大西卓哉 JAXA 宇宙飛行士による講演会を開催	8
あいち「国際植物の日」月間で植物イベントを開催	9
平成25年度春季新入留学生歓迎懇談会を開催	9
名古屋入国管理局との情報交換会を開催	10
キャンパスクリーンウィークを実施	10

●知の未来へ

公害対策と地方自治—日本経済史の視点から	11
小堀 聡 (大学院経済学研究科准教授)	

●知の先端

ルート系のゼータ関数の理論の構築をめざして	12
松本 耕二 (大学院多元数理科学研究科教授)	

●キャンパスクローズアップ

研究所共同館, Research Institutes Building	14
--------------------------------------	----

●部局ニュース

第17回名古屋ビジネスセミナーを開催	16
アデレード大学との合同シンポジウムを開催	16
第50回国立大学臨床検査技師教育協議会を開催	17
科学技術英語ライティング講演会を開催	17
地域社会減災計画寄附研究部門活動報告会を開催	18
第6回市民参加アベニューを開催	18
第1回「先進科学塾@名大」を開催	19
ピエール・カルティエ教授講演会を開催	19
第90回防災アカデミーを開催	20
三矢保永写真展「空・雲・光」を開催	20
第1回地球教室を開催	20

●受章者一覧

●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成25年5月16日～6月15日	26
---------------------------------	----

●イベントカレンダー

●ちょっと名大史

名古屋大学と外国人留学生 — 国際色豊かな学風へ —	32
----------------------------	----

第54回名大祭「飛びだせしやちほこ 祭りの空へ」が開催される





- 1 2 3
- 1 メインステージでのイベントの様子
 - 2 模擬店ストリート
 - 3 盆祭り企画の様子

第54回名大祭が、6月6日(木)から9日(日)までの4日間、「飛びだせしゃちほこ〜祭りの空へ〜」をテーマに開催されました。

本祭に先立ち、5月12日(日)には、毎年恒例の名大祭プレ企画「仮装行列」が、名古屋市栄地区の白川公園をメイン会場として実施されました。

本祭期間中は、広い東山キャンパスの至るところで様々な企画が開催され、多数の来場者で大いに賑わいました。

7日(金)の夕方には、「第8回盆祭り企画」が実施されました。この企画は、近隣町内会の方々との協同企画で、事前に町内会の方々とは合同練習するなどの準備を行っており、当日は、本学の学生はもちろん、住民の方々も小さなお子さんを連れて参加する姿が見られ、老若男女がともに輪を描いて踊りを楽しみました。

9日(日)には、名大祭本部実行委員会主催による学術講演企画が行われました。「教えて師匠!!〜落語から学ぶコミュニケーション〜」と題して、本学理学部の卒業生で真打の落語家である三遊亭圓王氏が、自己表現につながる落語をテーマに、巧みな話術のコツなどについて講演しました。会場では多くの笑い声が起こるとともに、



コミュニケーションの大切さに話題が移ると、来場者の方々があなずきながら、熱心に耳を傾けていました。

8日(土)、9日(日)に実施された「模擬店ストリート」では、保健所の助言を得て厳しい衛生管理のもとで運営された39店舗の飲食物の屋台が、所狭しと軒を連ねました。各店舗では長い行列ができて大変な賑わいを見せ、多くの来場者が買い求めた料理を楽しんでいました。

その他、ゲーム企画や名古屋大学吹奏楽団、民族舞踊団音舞の公演、大道芸人によるストリートパフォーマンス、古本市、サークルなど有志団体の企画が目白押しで、家族連れなど多数の来場者が楽しんでいました。

また、本祭期間中は、研究室公開など学術的な企画も学内各所で開催され、高校生をはじめ多くの参加者が、

普段見ることのできない大学での研究の一端に触れ、興味深げに見学していました。

8日(土)の夜には、豊田講堂前庭において、レーザーショーが行われました。スモークが炊かれた会場は、音楽に合わせて動く色鮮やかなレーザー光線に彩られ、幻想的な雰囲気に包まれました。終了後には多数の来場者から歓声とともに盛大な拍手が送られました。

最終日の夜には、名大祭の最後を締め括る企画として、豊田講堂前庭の特設ステージにおいて「後夜祭」が行われ、日が落ちて夕闇に浮かび上がる豊田講堂をバックに、パフォーマーによる火舞の演技が披露され、集まった来場者は感嘆の声を上げ、東海地区最大規模の大学祭である名大祭の終演を見届け、その余韻に浸っていました。

AC21国際スクーリングを開催



開講式での記念撮影

AC21（国際学術コンソーシアム）国際スクーリングが、5月31日（金）から6月4日（火）までの5日間、タイ王国バンコクのチュラロンコン大学及びカセサート大学において、メンバー大学である両大学との共催で開催されました。

AC21は、2002年に本学で開催された国際フォーラムにおいて、世界の教育・研究・産業組織による国際的な学術ネットワーク構築を目的として設立されて以来、2年に1度の国際フォーラムや学生世界フォーラムの開催、助成金提供を含む国際共同研究の推進などを中心とした活動を行ってきました。今回開催した国際スクーリングは、AC21の活動の幅をさらに広げるための試みとして企画された新規プロジェクトです。同スクーリングは、地球規模の課題に関し、科学技術分野における最先端の学術研究について学ぶ機会を提供することにより、大学院生の能力強化を図ること、並びにAC21メンバー国及び開催国であるタイやその周辺諸国の高等教育の一層の発展、ひいては持続可能な社会の構築に貢献することを目的として開催されました。

メインテーマを「Green Science and Technology for a Sustainable Future（持続可能な未来のためのグリーンサイエンスと技術）」、サブテーマを「Green Mobility and Energy（グリーンモビリティとエネルギー）」及び「Agricultural Sciences and Food Production（農学と食糧生産）」とし、メンバー大学から招へいたそれぞれの専門分野におけるトップレベルの研究者及びメンバー大学の卒業生であるビジネスリーダーが、講演・講義を行いました。ノーベル化学賞受賞者であり理化学研究所理事長を務める野依良治本学特別教授や、内山田竹志トヨタ自動車株式会社代表取締役会長を含む5名の基調講演者と15名の講師を招へいました。

同スクーリングは、メンバー大学及びタイ周辺諸国のメンバー大学以外の大学において博士課程前期課程以上に在籍する大学院生を対象とし、8カ国15大学から約80名の学生が参加しました。本学からは5名の学生と、濱口総長や渡辺理事をはじめとする教職員13名が参加しました。

開講式は、ピロム・カモンラタナクン チュラロン



基調講演の様子



基調講演での質疑応答の様子



あいさつをする総長

コン大学長、ブッティチャイ・カピンラカーン カセサート大学長、濱口総長による歓迎の辞に始まり、エティエン・クレメント ユネスコバンコク事務所副所長及びブーンソム・ラードヒランウォン チュラロンコン大学工学部長があいさつを行い、続いて、野依特別教授が「Science Shapes Your Future (科学は君たちの未来を創る)」と題し特別講演を行いました。この特別講演はチュラロンコン大学工学部の100周年記念行事としても位置づけられていたため、開講式の出席者は、約500名にのぼりました。

開講式に引き続き行われた交流会では、カモンラタナクン大学長の歓迎の辞に続き、クレメント副所長と池田修一国際協力機構タイ事務所所長があいさつを行いました。タイの民族舞踊を鑑賞しながら、世界各国から出席した学生や基調講演者及び講師、並びに後援機関・共催大学の関係者が歓談しました。

2日目以降は、基調講演者・講師によって、エネルギー技術や食糧生産、地球温暖化をはじめとする地球規模の課



特別講演を行う野依特別教授

題に関する最先端の学術研究に焦点をあてた講演・講義が行われ、参加した学生等からは、質問や意見が積極的に出されました。また、参加学生はグループに分かれてディスカッションを行い、講演・講義を受けて、自分達が重要だと考える地球規模の課題とその解決策について討議を重ね、最終日にグループ発表を行いました。

屋内での座学やグループディスカッション以外のプログラムも充実していました。講義終了後には、バンコク市内の散策ツアーが行われたり、最終日には、特に環境対応において最先端の取り組みを施し、アジアにおける環境モデル工場として位置づけられているトヨタ・モーター・タイランド社のバンポー工場を見学したりする機会もありました。

4日目夜には、ディナーパーティが催されました。シリ・チャイセリ カセサート大学副学長や AC21事務局局長である渡辺理事及び山下邦明日本学術振興会バンコク研究連絡センター長のあいさつの後、タイの民族舞踊や音楽を鑑賞したり、写真撮影を行ったりと大変盛り上がりしました。

同スクーリングは、大学院生の能力強化や、メンバー国やタイ周辺諸国の高等教育の発展に資するだけでなく、コンソーシアム加盟大学間のネットワーク醸成・強化を促進し、今後、AC21がコンソーシアムとして進化していく上で、示唆に富む内容となりました。

なお、同スクーリングを実施するにあたっては、文部科学省 G30プロジェクト、UNESCO、国際協力機構、日本学術振興会からの後援名義提供に加え、15社にのぼる協賛企業からの寄附及び2団体からの助成を受けました。



グループディスカッションを行う学生

濱口総長が日緬官民会合に出席

濱口総長が、5月26日(日)、ミャンマーを訪問し、日緬(日本・ミャンマー)官民会合に出席しました。同会合は、安倍晋三内閣総理大臣とテイン・セイン ミャンマー大統領による日緬首脳会談に引き続いて行われたものです。

安倍総理のミャンマー公式訪問は、日本の総理大臣として36年ぶりの訪問で、政府関係者のほか、40社を超える民間企業 CEO に加え、3名の大学代表者が同行しました。2011年3月に民政移管し、6,000万人を超える豊富な労働力と資源を有するミャンマーは、アジア最後のフロンティアとして世界各国から注目を浴びています。投資環境を整備するために2012年11月には外国投資法が改正され、日本企業もミャンマーを投資先として有望視しています。

会合に先立ち、25日(土)には、ティラワ経済特区の視察や日本・ミャンマー経済セミナー等が開催され、総長も同セミナーに出席しました。

日緬官民会合には、民間人4名が出席し、総長は高等教育機関からの唯一の出席者でした。席上、本学がこれまで行ってきたミャンマーにおける医療行政及び法整備に関す



総長(左)と安倍総理(右)

る人材育成を紹介するとともに、訪問当時締結準備中であつたヤンゴン大学との学術交流協定(6月29日(土)締結)や、ミャンマー日本法律研究センター(同日開設)の設置を通じて、より組織的・継続的に法整備支援や人材育成等を進めること、さらには、同センターを日本とミャンマーの高等教育機関間の交流拠点として活動していくことを説明し、支援を依頼しました。これを受けて、テイン大統領は、同協定の締結及び同センターの設置を推進するよう教育大臣に伝える旨発言しました。

今回の訪問では、ティン・トゥン ヤンゴン大学長との意見交換も行いました。あいさつの後、同協定の締結及び同センターの設置について説明し、当面は研究活動を主としたセンターとすることに合意し、将来的には教育機能を持つことも含め、今後の協力関係について協議を行いました。

本学は今後、同協定の締結及び同センターの設置を契機として、ミャンマーとの交流をさらに進めていきます。今回の総長の日緬官民会合出席は、両国政府の本学への高い期待のあらわれと認識し、同センターの活動により、日本政府が進めるミャンマーにおける法整備支援、人材育成に一層貢献していきたい考えです。



集合写真

濱口総長が全学教育科目「名大の歴史をたどる」で講義

濱口総長は、6月11日(火)、IB電子情報館大講義室において、全学教養科目「名大の歴史をたどる」の講義を行いました。

この講義は、大学文書資料室が新入生を対象として開講しているもので、本学の140年以上に及ぶ歴史を一通り解説したうえで、講義のうちの1回を総長が担当するもので



講義の様子

す。総長による特別講義は、今年で10年目を迎え、正規受講生以外の学生のほか、本学教職員や報道関係者にも公開されています。今回は、200名の正規受講生のほか、特に教職員の姿が多く見られた中、「名古屋大学から Nagoya University へ」と題してこれからの本学について語りました。

総長は、21世紀とは、前世紀の人口爆発や地球環境汚染を受け、人類が持続可能性を実現することを課せられた世紀であると位置づけ、そのような中で日本は超高齢人口減少社会の到来や国際競争力の急速な低下という大きな問題を抱えていると述べました。こうした時代認識をふまえて、「名大生の国際化の促進」、「次世代の人材育成と世界トップレベルの研究推進」、「名大を起点とする医療イノベーション」という3つの課題を挙げ、その実現に向けて本学がどのような取り組みをしているのかを具体的に解説しました。そして、特に新入生に対して、こうした取り組みを大いに活用して、地元だけの狭い殻に閉じこもらず、アジアを中心とする外国の人々や文化と積極的に交流し、自分の無限の可能性を広げていってほしいと強く訴えました。

全学同窓会関西支部第8回総会を開催

名古屋大学全学同窓会関西支部第8回総会が、5月18日(土)、大阪市の中央電気倶楽部において開催されました。

総会には会員約120名が出席し、初めに、三洋化成工業株式会社社名譽顧問である寛 哲男全学同窓会関西支部長から開会あいさつがあり、次いで濱口総長から、第一線の研究者で組織されるトランスフォーマティブ生命分子研究所



総会の様子

などの新しい研究拠点の設置や、本学が実施する若手育成プログラム(YLC)、若手研究者顕彰制度などについて報告がありました。また、本学の元留学生が、母国で重要なポジションに就き活躍している様子などが紹介され、「名古屋大学濱口プラン2013」を運営指針として、「名古屋大学から Nagoya University へ」をますます推進していくことについて報告がありました。次に、伊藤義人全学同窓会代表幹事から、全学同窓会が昨年秋に設立10周年を迎え、これを記念して、全ての海外支部長をホームカミングデイに招待し感謝状を贈呈したこと、10周年記念誌を発行したこと、本学にアカデミックガウンを寄贈したこと、10周年記念懇親会を開催したことなどが報告されました。

続いて、丹羽宇一郎全学同窓会副会長から、「どうする日本、どうなる中国」と題した講演が行われました。高い見識と駐中国日本国大使時代の人脈から集めた最新情報をもとにして、日中双方が話し合いを続け、お互いをよく知り理解を深めることが重要であると繰り返し述べました。講演後には、多くの質問が寄せられ、時間を延長するほどでした。

総会終了後の懇親会は、部局支部同窓会の代表者や若手参加者が近況を報告するなど、和やかな雰囲気でした。

学術奨励賞授与式を挙

平成25年度名古屋大学学術奨励賞授与式が、6月4日(火)、豊田講堂第1会議室において挙行されました。

同賞は、学術憲章に定める「人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする」という基本理念に基づき、本学の大学院博士課程後期課程に入学又は進学した特に優秀、かつ、将来有



記念撮影

望な学生に対して、その教育研究活動を奨励することを目的とした顕彰制度です。受賞者は大学院博士課程後期課程の6名で、表彰状及び副賞として学業奨励金80万円が授与されました。

授与式には、総長をはじめ理事、副総長、研究科長、指導教員が列席し、総長からは「みなさんは学術奨励賞を受賞したことにより、本学大学院の今の力を示す、いわば代表である。志をしっかりとつなぎ、さらに自分を高め、そして、後輩に夢と希望とロールモデルを与えていただきたい」と激励の言葉がありました。

受賞者は下記のとおりです。

【人文社会系】	大学院経済学研究科	古村 聖さん
	大学院国際開発研究科	平野夢香さん
【理工系】	大学院理学研究科	三宅美沙さん
	大学院工学研究科	中谷裕次さん
【生物系】	大学院工学研究科	北村紳悟さん
	大学院生命農学研究科	大井崇生さん

大西卓哉 JAXA 宇宙飛行士による講演会を開催

大西卓哉宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙飛行士による講演会が、6月2日(日)、豊田講堂において開催されました。これは、名古屋国際会議場を中心に開催された「第29回宇宙技術および科学の国際シンポジウム（ISTS）」の一般向けイベントとして、午前の小中学生向けのトークショー、午後の一般向け講演とパネルディスカッションの



午前の部で参加者の質問に答える大西氏

2部に分けて開催されたもので、延べ1,081名の方が参加しました。

午前の部では、大西氏が、宇宙飛行士の活動や訓練及び自身の宇宙飛行士選抜試験について話し、その後設けられた質問コーナーでは、参加者から多くの質問があがり、大西氏が丁寧に答えました。「一番厳しかった訓練は」との質問には「野外チームワーク訓練は厳しい訓練であったが楽しかった。厳しい訓練はその後生きてくる」と実感を伴った回答をし、「好きなことをやるためには、好きじゃないことも一生懸命やってください。頑張ったことが生きてくる」と子どもたちに向けてアドバイスしました。

午後の部では、講演のほかに、「今後の有人飛行はどうあるべきか」をテーマにパネルディスカッションが行われました。大西氏のほか、國枝理事、佐宗章弘工学研究科教授、大学院理学研究科博士課程前期課程2年の玉樹成章さんがパネリストを務め、人が宇宙に行く意味について参加者も交えて話し合い、効率の高い電気式のロケット開発の推進や、官民で力をあわせて商業用の有人飛行を進めるべき、といった提案がありました。

あいち「国際植物の日」月間で植物イベントを開催

「あいち“国際植物の日”月間」が4月28日(日)から6月16日(日)の間、開催されました。昨年度に5月18日が国際植物の日と制定され、世界中でその活動が始められたのを受けて、愛知県内事務局を本学が担いこの月間を設定したものです。植物に関するイベントが10団体により30件行われました。本学では産学官連携推進本部とリサーチ・ア



あいちサイエンストークで解説する戸丸信弘教授

ドミニストレーション室が中心となり、9企画を開催しました。対話イベント「さかえサイエンストーク」を三井住友銀行 SMBC パーク栄で4回実施し、5月8日(水)はシンジェンタ ジャパン株式会社の福田美雪氏、22日(水)は神山康夫三重大学名誉教授、29日(水)は野菜茶業研究所の松元哲上席研究員、6月5日(水)は梅根一夫基礎生物学研究所助教が講演しました。15日(水)には木下俊則本学トランスフォーマティブ生命分子研究所教授による「名大カフェ」を開催しました。

また、18日(土)は豊橋市自然史博物館で行われた「あいちサイエンスコミュニケーション・セミナー」に後藤デレック北海道大学准教授を、19日(日)は東山植物園で戸丸信弘生命農学研究科教授を、6月2日(日)は小牧市バラ・アジサイ祭りで福井博一岐阜大学教授をゲストに「あいちサイエンストーク」を行いました。この「あいち“国際植物の日”月間」は9月28日(土)から11月4日(日)に開催される例年恒例の「あいちサイエンスフェスティバル」の春のプレ企画として位置づけ、「JST ネットワーク形成地域型」と「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」の支援を受けて展開したものです。

平成25年度春季新入留学生歓迎懇談会を開催

平成25年度春季新入留学生歓迎懇談会が、5月20日(月)、南部食堂において開催されました。

同懇談会は、今後の留学生生活が実りのあるものになるよう激励し、留学生同士のみならず、留学生と留学生関係教職員との懇談を通して一層の相互理解・交流を深めることを目的としており、当日は、新入留学生、教職員など約

200名の参加がありました。

最初に濱口総長から歓迎、激励のあいさつがあり、これを受け、新入留学生を代表して、大学院教育発達科学研究科の王卉さん(中国)と、理学部のウルピナ・ヘラルドさん(エルサルバドル)が、それぞれ日本での留学についての抱負等を述べました。

続いて、渡辺理事の発声による乾杯の後、懇談にうつりました。新入留学生が総長や教職員を囲んでこやかに歓談したり、記念撮影したりする姿が会場のあちらこちらで見受けられました。

懇談会は、町田留学生センター長の閉会のあいさつの後、大盛況のうちに終了となりました。



記念撮影(左から渡辺理事、王さん、総長、ヘラルドさん)

名古屋入国管理局との情報交換会を開催

名古屋入国管理局との情報交換会が、5月20日(月)、IB電子情報館大講義室において開催されました。

初めに、三枝国際部長より開会のあいさつがあり、続いて、安東健太郎名古屋入国管理局留学・研修審査部門首席審査官により「申請取次制度及び入国管理行政について」、平林毅同就労審査部門首席審査官により「在留資格審査



会場の様子

業務(就労)について(高度人材の受入れ等)」と題した講演がありました。

安東首席審査官からは、申請等取次制度の概略、平成24年7月から導入された在留管理制度下での入国管理行政、留学生受入れ教育機関が行うべき届出申請に関して重点的に解説があり、参加者は熱心に聞き入っていました。

また、平林首席審査官からは、高度人材の受け入れを促進するために新たに導入された出入国管理上の優遇措置について、具体的な話がありました。

講演後には、事前に受け付けた質問に対する回答がありました。

当日は、名古屋を中心とした東海地方の各大学、教育機関等から約200名の参加があり、同会終了後も、積極的に個別の質問をする出席者の姿が多数見受けられ、盛会のうちに終了しました。

キャンパスクリーンウィークを実施

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が、名大祭終了後の6月10日(月)から14日(金)まで、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。

これは、環境月間である6月に環境保全に対する関心を高めるため平成元年から実施されているもので、例年6月と12月の年2回行っています。名古屋市の一構成員として



説明を受ける職員

境界の外周道路清掃も併せて行い、環境美化に努めています。

本部では、6月12日(水)の午後、梅雨の中休みの薄曇りで蒸し暑い中、竹下事務局長をはじめとした約150名の本部職員が、一斉に東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれて、空き缶・紙くず等の除去、雑草の刈り取り、不要なビラ等の撤去などの作業を行いました。

なお、名古屋市のごみ分別区分が変更されて3年が経過したこともあり、参加者の分別意識が高くなってきていました。

本学では、今後も年2回のキャンパスクリーンを実施することにより、ゴミのないきれいなキャンパスを目指します。

公害対策と地方自治―日本経済史の視点から

小堀 聡
大学院経済学研究科准教授

日本経済の衰退が云々される昨今ですが、いまだ強みのある領域の一つに環境対策技術があることは周知のとおりです。その要因には企業の研究開発努力がもちろん挙げられますが、国や地方自治体の公害防止政策がこれを促したことを忘れるわけにはいきません。産業界の嫌がる規制をあえて実行したことが、環境の改善のみならず、日本経済の国際競争力向上にも結局寄与したのです。これはどのようにして実現したのでしょうか。

先駆的な役割を果たしたのは国ではなく地方自治体でした。その代表例は横浜市です。社会党代議士の飛鳥田一雄が市長に当選した翌1964年から、横浜市は、進出企業と個別交渉を行い、法律の範囲を超えた公害防止規制を課し始めました(公害防止協定)。東京電力南横浜火力発電所が世界初のLNG専焼で建設されたのもこの成果です。横浜市が公害防止協定を実現させた要因としては、各企業と科学的な折衝のできる技術系職員を市が抱えていたこと、弁護士でもある飛鳥田が常識的な法解釈を突破できる視点をもっていたことなどが指摘されます。そして、同様の取り組みは横浜方式として各地に広がりました。

もっとも、飛鳥田らはこれらの成果に100%の満足はしていませんでした。市の先取的な対応が住民運動の「発芽を摘んできた部分がある」(ブレーンの鳴海正泰氏)ことを後に反省しています。飛鳥田曰く「公害問題だってもっと市民は怒っていいんだよ、あちこちで。それを市が先頭に立って解決したろう? そうすると任せとけばいいというお任せ主義になる」と。(『横浜市史資料室紀要』第2号、2012年、78頁)。

横浜市とは対照的に住民運動によって突き動かされた事例として、鉄鋼業で有名な北九州市が挙げられます。北九州市の公害対策で大きな役割を果たしたのは地元の婦人会でした。企業城下町という不利な条件にもかかわらず、婦人会は公害実態の学習・調査活動を継続します。なかでも宣伝映画―その名も『青空がほしい』―の自主制作・公開まで実現したのは特筆すべきでしょう。こうした成果を背景に工場幹部や市との交渉などを行う過程で、企業・自治体の方針は徐々に転換されていきました。そして北九州では、解決まで横浜よりも長い時間を要した反面、環境への関心は現在でも比較的高いようにみえます。

今日喫緊の課題である再生可能エネルギーの普及を実現するには、地方自治体や住民など地域社会の積極的・継続的な取り組みが不可欠といわれます。では、どのように取り組んでいくのがより理想的でしょうか。高度成長期日本の公害対策を研究することは、この問いの答えを見出す上でも大きな参考になるのではないかと考えています。



写真1 飛鳥田市長(右)とブレーンの鳴海氏、1970年頃
(横浜市史資料室所蔵鳴海正泰資料)



写真2 三菱化成黒崎工場を視察する北九州市の婦人会メンバー、
1967年7月(林栄代『八幡の公害』朝日新聞社、1971年)

ルート系のゼータ関数の理論の構築をめざして

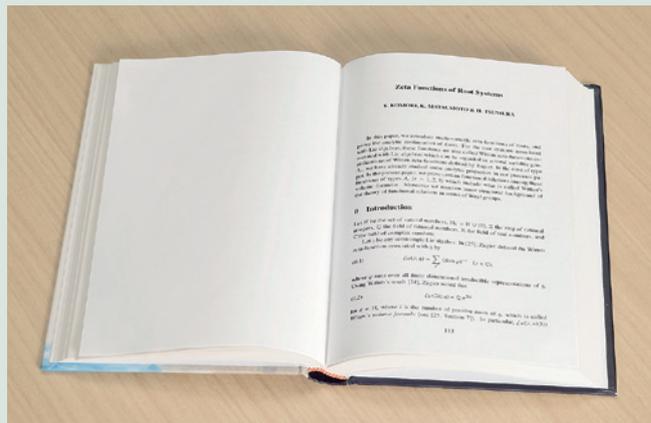
松本 耕二 大学院多元数理科学研究科教授

私は整数論の専門家ということになっていて、自分でも尋ねられたらそう答えるのですが、実際の研究は、必ずしも整数を直接眺めてあれこれ考えているわけではありません。私が日々やっていることは、ゼータ関数、あるいはL関数と総称される一群の関数の性質の研究です。これらの関数が本来は整数の性質と深く結び付けて論じられてきたことから、ゼータ関数を研究しているというと、大抵の場合には整数論の専門家と分類されるわけです。

しかしながら今日では、ゼータ関数という概念も非常に一般化されていて、その関係する分野も、整数論とは特に限らず、数学や数理物理学の幅広い領域に及んでいます。最近私が重点的に研究している対象の一つに「ルート系のゼータ関数」というものがあります。これは物理学者のWittenが導入した「Wittenのゼータ関数」というものを多変数化した関数として私たちが考え付いたものです。

少し経緯を書きますと、私はWittenのゼータ関数を多変数化することが有効であろう、という着想を10年ほど前から抱いていました。2002年にドイツのBonnで開かれた研究集会の報告集の中で「B型2次元」という特別な場合のルート系のゼータ関数を定式化したのが公式の出版物で述べた最初ですが、その後、首都大学東京の津村博文さんや、当時まだ名大にいた（現在立教大の）小森靖さんと共同研究を進め、2007年に出版された3人の共著論文で、一般のルート系に対するゼータ関数の定義を与えました。

素粒子に働く力を研究する、量子ゲージ理論という物理学の理論がありますが、その理論を記述するための数学的な道具として欠かせないのがLie群と呼ばれる群の一種です。そしてLie群を分類しようとするとき、大変便利な道具となるのがルート系と呼ばれる、ある種のベクトルの集合なのです。WittenはLie群に対応して彼のゼータ関数を定義したのですが、それを明示的に書き



ルート系のゼータ関数の一般的な定義を初めて提起した論文の第一ページ



国際会議における講演の様子

直し、多変数に拡張することによって私たちはルート系のゼータ関数を定義したわけです。

ルート系は A 型から G 型までの 7 種類の族に分類されています。その中でも A 型の 1 次元ルート系という最も単純なルート系に対応するゼータ関数が、素数分布論などの古典的な整数論と深く関係している Riemann のゼータ関数です。A 型 2 次元のルート系の場合は Tornheim の二重和と言われ、これも古典的なものです。また Euler-Zagier の多重和と呼ばれる、トポロジーや数理論理と結びついて近年盛んに研究されているある種の多重級数も、C 型ルート系のゼータ関数の特殊な場合として捉えられることを、私たちは 2012 年に書き上げた論文の中で証明しました。このようにルート系のゼータ関数は、多くの重要なゼータ関数を統一的に理解する枠組みを提供しているわけです。

不思議なことにアメリカでも、ほぼ同じ時期

に、ルート系と密接に関連する（ただし私たちのものとは全く異なる）ある種の変数ゼータ関数が導入されました。こちらは最初、ある種の古典的な L 関数の平均値の計算、といった動機付けで考え出されたのですが、こちらのゼータ関数も組み合わせの個数の数え上げの問題や、また統計物理学などとも繋がりを持つことがわかり、現在盛んに研究が進められています。

アメリカ学派の面々にとっても私たちのゼータ関数は気になるものようで、私は彼らが主催する集會に二度ほど招待されて講演しましたし、韓国での国際会議でも彼らと同席しているいと議論を重ねましたが、なかなか両者を結ぶ糸は見つけられません。しかしいずれにしても、私たちの研究や彼らアメリカ学派の研究は、ゼータ関数の世界におけるルート系の本質的な重要性を明らかにしたと思います。私たちの理論の更なる可能性を求めて、現在も模索を続けているところです。

大阪府出身

東京大学理学部数学科卒業
立教大学大学院理学研究科修了
岩手大学助教授、名古屋大学助教授を経て現職
日本数学会会員

2005年に日本数学会代数学賞受賞
リール第一大学（フランス）、ヴェルツブルク大学（ドイツ）客員教授
モットー：人生大いに楽しみたい
趣味：研究そのものが最大の趣味ですが、加えて歴史マニアで地理マニアで恐竜マニアで SF マニアで漫画マニアです。映画もよく観ます。数学以外の科学ネタも好きです。

まつもと こうじ



41. 研究所共同館, Research Institutes Building



本建物は昭和38年～40年にかけて建設された共同教育研究施設1号館の老朽化に伴い、建て替えを目的として計画された建物です。敷地は東山キャンパスの東の端に位置していて、まだ目にしたことがない方のほうが多いかも知れません。

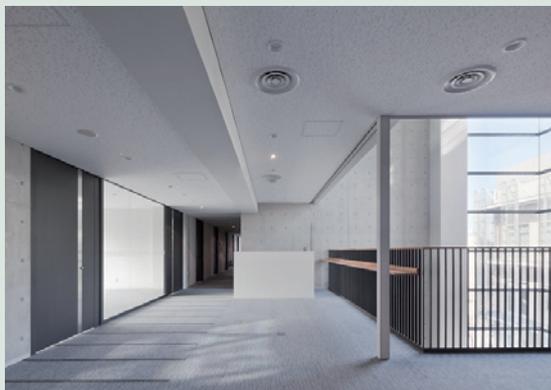
もともと共同教育研究施設1号館には太陽地球環境研究所、エコトピア科学研究所、地球水環境研究センター等が入居していて、それぞれが地球環境に関する研究領域を持っています。

そこで、環境というキーワードを軸に①「研究」を育む環境、②「交流」を促す環境、③「自然」を育む環境、の3つをコンセプトとして、延べ床面積約7,000m²、地上8階建ての具体的なカタチをつくっていきました。

■「研究」を育む環境

研究を効率よく行ってもらうために、明快なフロア別ゾーニングとしています。具体的には1階、3階、8階を実験ゾーン、2階を事務室など管理ゾーン、4～7階を研究居室ゾーンと定めることで、それぞれの機能に見合った建物のしつらえにできるのです。例えば、最上階にあたる8階にはドラフトチャンバーを使用するような実験室を集めることで、屋上までの配管距離が短くなったりします。

今度はフロア単位で見ると、東西に細長く伸びたフロアには、中心にエレベーターやトイレ、ミーティングスペースなどの共用部を配し、それを居室エリアが挟んでいるという構成です。また、この東西の居室エリアは、梁の出っ張りや柱の数を減らすよう構造的な検討をして、将来の





間仕切り変更や設備配管・配線の変更に対応できるフレキシブルな構造になりました。

実験ゾーンは基本的に天井がないので、フラットできれいなコンクリートがちらっと見えたりもします。

■「交流」を促す環境

研究者や学生相互の情報交換を含めたさまざまな種類の交流を促すために、フロアを中心にカウンターのある流し台やラウンジ、コピーコーナーなども配置しました。こうすることで、お茶を作りに来た人とラウンジでくつろぐ人、コピーをとりに来た人などの偶然の出会いを演出します。これら共用部は3階から8階までつながる吹抜け空間にも面していますので、フロア間のタテのつながりも感じることができると思います。

また、同様に共用部に面するミーティングスペースや、居室エリアの院生室は廊下との壁をガラスとして、活動が「見る・見られる」の関係になる開放的な空間としています。光や視線を通すガラスは限られた空間を広く、明るく見せる効果があり、これもコミュニケーションの一助となればと考えました。

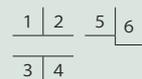
■「自然」を育む環境

省エネルギーや環境負荷低減に対するさまざまな取り組みも行っており、その一つに地熱利用があります。地熱によって年中一定の温度で安定している地下ピットに外の空気を取り込む



と、その空気が冬には暖められたり、夏は冷やされたりする効果が得られるのです。この空気を各室に送ることで空調に使うエネルギーを低減することができます。この他にも井水利用や、吹抜けを利用した自然換気、太陽光発電、全館LED照明、壁面緑化など多様な取り組みを行い、名古屋市の環境総合性能評価指標であるCASBEE名古屋でも最高ランクのSランクを取得しています。

冒頭でもふれたように、東山キャンパス内でもかなり奥にある建物ですが、キャンパスの散策がてら行ってみたいはいかがでしょうか。そして建物とそれがもつ空間、空気を感じていただければ幸いです。



- 1 外観（北東）
- 2 エントランスホール
- 3 ラウンジ
- 4 ミーティングスペース
- 5 吹抜見下ろし
- 6 東側緑化壁

第17回名古屋ビジネスセミナーを開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターは、5月16日(木)、日本経済新聞社名古屋支社会議室において、経済学部同窓会である社団法人キタン会と共催で、第17回名古屋ビジネスセミナーを開催しました。同センターは、領域横断型の研究を開拓し、その成果を広く社会に還元することを任務としており、同セミナーは、その一環と



講演する櫻井社長

して、地域に開かれた研究活動を推進することを目的として開催しています。今回は、櫻井博志旭酒造株式会社代表取締役社長を講師として迎えました。

佐藤宣之同センター教授の司会のもと、初めに木村同研究科長が開会あいさつを行い、続いて櫻井社長が「ピンチはチャンスーだっさいの挑戦ー」と題して講演を行いました。

日本酒の国内消費は長期低落傾向を辿り、海外消費も増加中とはいえ微々たる割合に留まっています。こうした状況を踏まえ、政府も、昨年春、「ENJOY JAPANESE KOKUSHU」プロジェクトを立ち上げ、國酒、即ち日本酒と焼酎の国内外における認知度向上と輸出環境整備に本格的に乗り出しました。櫻井社長はこうした政府の動きに先駆けて国内外での展開に戦略的に取り組んでおり、講演は「地元市場で競争力がなかったゆえに東京進出を試み、むしろピンチがチャンスを生んで今日の姿に成長した」、「海外輸出を考えた場合、日本酒はその複雑な製造工程ゆえに、コスト競争ではワイン等の海外酒類に勝てない」等々、示唆に富む内容でした。

地域の企業が積極果敢に国内外で活躍する姿は、名古屋の産学官関係者にとっても励みとなるとともに、種々学ぶべき点があったようでした。

アデレード大学との合同シンポジウムを開催

●大学院医学系研究科

大学院医学系研究科は、5月27日(月)、オーストラリアのアデレード大学において、神経疾患と腫瘍に関する合同シンポジウムを開催しました。これは、同大学医学部と最新の学術的交流を図り、今後神経疾患と腫瘍に関する共同研究を進展させることを目的として開催されたものです。

シンポジウムは、ジャスティン・ベルビー アデレード大学



意見交換の様子

教授及びアラスター・バート同教授の歓迎のあいさつで幕を開けました。本学からは、高橋医学系研究科長ら10名が参加し、2グループに分かれて、幅広い分野について様々な角度から研究発表を行いました。参加した研究者や大学院生は研究発表に熱心に耳を傾け、積極的な質疑を行いました。シンポジウム終了後には、ベルビー教授、ジュリー・オーウェン同教授及びシンポジウムで発表を行った複数の教授と、今後の共同研究の可能性について意見交換しました。

翌28日(火)には、2014年春に完成予定で同大学の最先端施設となる南オーストラリアヘルスメディカル研究機構(SAHMRI)の説明を受け、フォトニクス先進技術研究所(IPAS)、クリニカルスキルラボ、バイオスキルラボなどの研究施設を見学した後、今後の共同研究や研究施設利用に関する意見交換を行いました。29日(水)には、大学院生や若手研究者の交換留学の推進など、相互の合意内容をベルビー教授と確認した後、ケント・アンダーソン同教授と会談し、医学部としての方針を大学側に報告しました。

緊密な発展的協力関係を構築する機会となった今回の訪問により、今後、両大学間の教育研究に関する交流がより一層促進されることが期待されます。

第50回国立大学臨床検査技師教育協議会を開催

●大学院医学系研究科

大学院医学系研究科医療技術学専攻病態解析学講座は、5月24日(金)、鶴舞キャンパスの鶴友会館大会議室において、第50回国立大学臨床検査技師教育協議会を開催しました。

同協議会は、臨床検査技師教育を行う国立大学が、相互間の緊密な連絡と協力により、臨床検査技師育成に関する



会場の様子

教育、研究等についての諸問題を協議し、その振興に寄与することを目的として開催しています。今年も、本学が会長校にあたり、大学院医学系研究科病態解析学講座が主幹を務めました。総会には、会員校である全国20校から教員、事務職員を含めて43名が出席しました。

開会にあたり、高橋医学系研究科長、榊原久孝同研究科保健学統括専攻長よりあいさつがあり、議長として川部 勤同研究科医療技術学専攻病態解析学講座教授を選出した後、日本の臨床検査学教育の推進・強化における国立大学の役割について具体的な提案をもとに審議しました。編入学生や私費外国人留学生の受け入れなどについても、活発な意見交換がなされました。

科学技術英語ライティング講演会を開催

●工学部・大学院工学研究科

工学部・大学院工学研究科国際交流室は、6月12日(水)、IB 電子情報館大講義室において、科学技術英語ライティング講演会を開催しました。工業英検を主催している日本工業英語協会の専任講師である中山裕木子氏を招き、前半の「科学技術英語ライティングの基礎」、後半の「英語による科学技術論文執筆の際の心構え」の2部構成で実施し



講演会の様子

ました。

初めに西山聖久工学研究科講師から中山氏の紹介があり、その後、中山氏は実践的な解説を行い、特に科学技術英語ライティングにおいては3C (Clear・Correct・Concise) の概念が重要であることを強調しました。

当日は、本学の科学技術関連の多数の学部・研究科より200名近い学生・教職員が集まり、今後も同様の講演会を求める声が多数寄せられました。この反響を踏まえ、工学部及び大学院工学研究科は、同室を中心に、体系化された科学技術英語ライティングの知識を習得できる機会を積極的に提供することを目指す考えです。

地域社会減災計画寄附研究部門活動報告会を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、6月14日(金)、環境総合館1階レクチャーホールにおいて、地域社会減災計画(応用地質)寄附研究部門の平成24年度活動報告会を開催しました。同センター及び寄附研究部門の関係者をはじめ、約80名が出席しました。

初めに、岩崎恒明応用地質株式会社代表取締役副社長が



報告会の様子

寄附部門設置に対する思いについて話しました。続いて、曾根好徳同寄附研究部門教授より、同研究部門の1年間の活動報告がありました。曾根教授は、同研究部門が、産業界の目線で産官学民の連携を強化することを大切にしながら、東日本大震災に徹底的に学び、南海トラフ巨大地震に備えて「しなやかな」地域社会の構築を目指す一連の研究に取り組んでいることを報告しました。

次に、研究成果の紹介として、仲条 仁同センター受託研究員より、東日本大震災の産業被害について報告がありました。また、過去の地震から得た教訓を風化させずに後世に伝承する研究を行っている倉田和己同寄附研究部門助教は、地理情報システム(GIS)を活用した減災への貢献について報告しました。さらに、山崎雅人同寄附研究部門助教より、経済被害予測モデルの開発とその利用可能性について報告がありました。最終的に自然災害に伴う経済被害を指標として減災対策を評価することを目的としており、その手段として同モデルを開発中であることが説明されました。

最後に、兼森 孝応用地質株式会社取締役常務執行役員より講評があり、閉会となりました。

第6回市民参加アベニューを開催

●エコトピア科学研究所

エコトピア科学研究所は、6月5日(水)、愛知県知多郡武豊町にある中部電力株式会社メガソーラーたけとよにおいて、第6回市民参加アベニューを開催しました。

東日本大震災以降、電気エネルギーの問題はターニングポイントを迎えています。同企画は、市民一人ひとりが電気の理解を深め、電気の大切さを再認識し、日常生活の場



メガソーラーを見学する参加者

で実践できるようになることを目的とし、定期的な講演や見学会を通じて学ぶ機会を提供しているもので、年2回程度開催しています。今回は、再生可能エネルギーとして期待されている太陽光発電の現状について講演を行うとともに、実際に稼働しているメガソーラーシステムの見学を実施し、76名の参加がありました。

初めに早川直樹同研究所エネルギー科学研究部門長があいさつし、山中三四郎名城大学教授より「太陽光発電 日本の現状」と題して講演がありました。山中教授は、太陽光発電の特徴について説明するとともに、経済性の早期確立への誘導や、電力系統との調和が必要なことなどの課題について、国内外の実例を交えてわかりやすく講演しました。その後、メガソーラーたけとよ及び武豊火力発電所の見学を行い、参加者は、太陽光発電の可能性を体感するとともに、電力安定供給の重要性について学びました。

同企画開催にあたっては、電力設備の見学を含むため、事前申し込み制をとりましたが、予想を大きく超える反響があり、早々に定員に達しました。太陽光発電に非常に大きな興味と期待がかけられていることがうかがわれました。

第1回「先進科学塾@名大」を開催

●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、6月8日(土)、9日(日)の2日間、第1回「先進科学塾@名大」を開催しました。

同企画は、平成15年から名古屋市科学館で行ってきた「先進科学塾」を、本学の教育研究環境を活用してさらに発展させる試みで、テーマに沿った実験を多数行い、その原理を追求し、自分の考えをまとめることを通して、多く



光の三原色の実験の様子

の市民の方に科学のもっとも面白い部分に触れ、科学に親しんでもらうことを目指しています。

今回は、「光と色の不思議」と題し、講師に中部大学及び名東高等学校非常勤講師である飯田洋治氏を招いて開催しました。回折格子のレプリカで簡易分光器を作って、日光、電灯、水銀灯やナトリウム灯が出す光のスペクトルを観察したり、光の三原色を出す3本の蛍光灯を使って、出来る影の色を観察したりして、光と色について実験し、その不思議を学びました。2日間で、中学生10名、高校生5名、大学生1名、一般の方19名、小学生1名の計36名が参加しました。

次回は、8月31日(土)、9月1日(日)に「音を見る」と題して、音の不思議を探る講座を開催する予定です。また夏には、愛知県立一宮高等学校などのスーパーサイエンスハイスクールとともに、より高度な科学の探究を目指す連携行事も予定しています。希望があれば、近辺の中・高等学校への出前授業なども行う予定です。

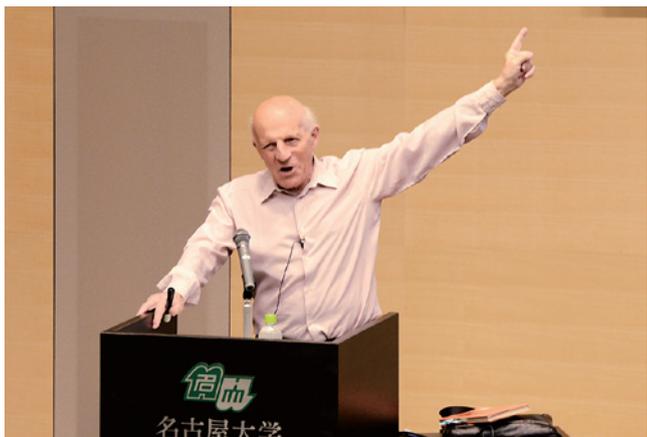
先進科学塾@名大のホームページは、こちら(<http://asw.flab.phys.nagoya-u.ac.jp/>)をご覧ください。

ピエール・カルティエ教授講演会を開催

●大学院多元数理科学研究科

大学院多元数理科学研究科は、6月12日(水)、理学南館大講堂において、ピエール・カルティエ教授講演会を開催しました。本学内外から約130名の参加者がありました。

この講演会は、1930年代から1980年代にかけて「数学原論」の出版で、現代数学に大きな影響を与えたフランスの数学者集団「ブルバキ」の一員であったカルティエ教授が、



講演するカルティエ教授

本学に滞在する機会をとらえて企画されたものです。

「20世紀の数学における大革命、ヒルベルトとブルバキ：その現状と未来？」と題した同教授の講演では、ドイツ哲学の伝統を受け継いだ数学者ヒルベルトによる公理主義の思想のもと、ブルバキが20世紀の数学革命において果たした役割が説明されました。講演では、21世紀においては数学の研究も研究者人口の増大・国際化や計算機・インターネットの発達といった潮流からは逃れられないとの指摘があり、若者に向けた力強いメッセージで締めくくられました。

休憩をはさんで、青本和彦名誉教授が「J. Matherの定理と中山の補題」と題して、1968年に起きた「5月革命」時にパリへ滞在した思い出を交え、当時の研究を振り返りました。最後に、フランス思想文学の研究者である稲葉延子カリタス女子短期大学教授が「ヴェイユ家の物語」と題して講演しました。稲葉氏は、ブルバキの中心的メンバーで京都賞を受賞しているアンドレ・ヴェイユの自伝の翻訳を手がけており、講演ではアンドレと彼の長女であるシルヴィとの心暖まる交流のエピソードが紹介されました。

第90回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター



講演する藤村氏

減災連携研究センターは、5月28日(火)、環境総合館において、第90回防災アカデミーを開催しました。

今回は、ぼうさい朝市ネットワーク全国コーディネータである藤村望洋氏による講演「南三陸と、災害時の『隣』から支援『ぼうさい朝市ネットワーク』」が行われ、77名もの参加がありました。

藤村氏は、初めに、阪神・淡路大震災や東日本大震災時の自身の経験について紹介し、続いて被災地支援における「隣ネットワーク」の意義に関して説明しました。その後、東日本大震災時に行われた「隣ネットワーク」の実例として、南三陸を支援するため、山形県酒田市を拠点として救援物資を運んだ経緯や、この取り組みを加速させるための「『福興市』と『ぼうさい朝市』・メディアミックス型地域間共助連携」の構想が紹介されました。

会場からは、講演内容を踏まえ、自立を促す支援の行い方などについて活発な質疑応答が行われました。

三矢保永写真展「空・雲・光」を開催

●博物館



展示作品「弥山朝の雲海」

博物館は、4月16日(火)から6月14日(金)までの間、同館野外観察園セミナーハウス2階展示室において、三矢保永写真展「空・雲・光」を開催しました。

撮影者の三矢保永氏は本学工学部の名誉教授で、50年近く登山歴があり、空・雲・光の織りなす写真をフィルムカメラにこだわって撮影し続けています。今回は30枚の写真を展示し、名大祭を挟んだ53日間の会期中における観客数は、1,014名にのぼりました。観客からは、「雄大な自然の中の不思議な現象を、写真を通してみる事が出来て感激した」、「どれもこれも素晴らしく抒情詩を見ているようだ」といった感想が寄せられました。

6月1日(土)には、同氏によるギャラリートークが行われ、29名が芸術写真を前に科学的な解説を受けました。

野外観察園セミナーハウスは、平成15年度に新築され、2階展示室では年に数回の展示を開催しています。近年は、学内のみならず地域の方々の来訪も増えています。

第1回地球教室を開催

●博物館



南知多町礫ヶ浦にて化石採集を行う参加者

博物館は、5月25日(土)、26日(日)の2日間、第1回地球教室「名大博物館バックヤードと野外で深海の地層と化石を調べよう!」を開催しました。

今回は、130名を超える応募者から選ばれた約30名が参加し、1日目は、博物館において、日本や世界のさまざまな地層について紹介した後、地層を作る実験をしました。また、同館のバックヤードで同館所蔵の化石などを観察しながら、化石が地層の中に残されるプロセスについて考えました。2日目は、南知多町の礫ヶ浦と片名を訪問し、砂岩と泥岩の地層を観察した後、化石の採集を行いました。参加者は、二枚貝やヒトデ、ウニ、などの化石を自分で見つける興奮を味わうとともに、古代の生物が地層に残された過程を考えることによって、自然を身近に感じ、理解を深めていました。

なお、同事業は、博物館と名古屋科学館との連携事業の一環として、愛知大学名古屋一般教育研究室の援助を受けて開催しています。

受章者一覧

褒章関係

受章日	受章名	受章者の所属・職名	受章者	備考
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）	大学院工学研究科教授	石川 隆司	
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	大学院工学研究科教授	新美 智秀	
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	名誉教授・ 大学院工学研究科特任教授	竹田 美和	他1名と連名
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	名誉教授・物質科学国際 研究センター特任教授	巽 和行	
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）	大学院工学研究科教授	梅原 徳次	千田進幸（元全学技術センター技術専門職員）、 福森 勉（全学技術センター技術専門職員）、 兼子一重（大学院工学研究科助教）、 他1名と連名
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）	名誉教授	國分 征	他4名と連名
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院医学系研究科准教授	榎本 篤	
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院工学研究科准教授	波多野 学	
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 若手科学者賞	太陽地球環境研究所准教授	三好 由純	
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院工学研究科助教	ウヤマク ムハメット	
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 若手科学者賞	高等教育研究センター助教	齋藤 芳子	
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院工学研究科助教	田代むつみ	
H25. 4.16	文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院環境学研究科准教授	丸山 一平	
H25. 4.29	瑞宝中授章	名誉教授	星野 洸	
H25. 4.29	瑞宝中授章	名誉教授	杉山 達夫	
H25. 4.29	紫綬褒章	大学院工学研究科教授	河本 邦仁	

教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H24. 3.29	2011年度 デンマーク王立文学科学アカデミー海外会員	大学院多元数理科学研究科 教授	ヘッセルホルト ラース	
H24. 5.28	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス 講演会2011 ROBOMECH 表彰	大学院工学研究科教授	新井 史人	
H24. 6. 5	SDB Travel Award, 12th International Conference on Limb Development and Regeneration	大学院理学研究科助手	白石 洋一	
H24. 7. 5	第74回 耳鼻咽喉科臨床学会 優秀ポスター賞	医学部附属病院助教	大竹 宏直	
H24. 9.20	2012年度日本数学会建部賢弘奨励賞	大学院多元数理科学研究科 助教	馬 昭平	
H24.12.12	旭化成ファーマ 研究企画賞	物質科学国際研究センター 助教	瀬川 泰知	
H24.12.20	第13回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 SI2012優秀講演	大学院工学研究科助教	岡本 正吾	山田陽滋（大学院工学研究科教授）と連名
H25. 1.16	日本機械学会 日本機械学会フェロー	大学院工学研究科教授	松本 敏郎	
H25. 1.17	第24回高分子ゲル研究討論会 優秀演題賞	大学院工学研究科助教	野呂 篤史	
H25. 2. 1	Best Poster Presentation Award, IS Plasma 2013	大学院工学研究科特任講師	河合洋次郎	本田善央（大学院工学研究科助教）、 山口雅史（大学院工学研究科准教授）、 天野 浩（大学院工学研究科教授）、 近藤博基（大学院工学研究科准教授）、 堀 勝（大学院工学研究科教授）と連名
H25. 2. 4	井上科学振興財団 第29回井上研究奨励賞	大学院多元数理科学研究科 特任助教	米澤 康好	
H25. 2. 7	デンマーク国立研究財団 Niels Bohr Professor 賞	大学院多元数理科学研究科 教授	ヘッセルホルト ラース	
H25. 3. 7	矢崎科学技術振興記念財団 平成24年度矢崎学術功績賞	大学院工学研究科教授	石原 一彰	
H25. 3. 8	Ecological Reserch Paper Award 2012	年代測定総合研究センター 助教	小田 寛貴	
H25. 3.11	永井科学技術財団 第30回永井学術賞	大学院工学研究科教授	鳥本 司	
H25. 3.11	永井科学技術財団 第30回永井学術賞	大学院工学研究科准教授	小橋 眞	

受章者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H25. 3.13	第7回日本ファシリティマネジメント大賞 功績賞	大学院工学研究科准教授	恒川 和久	
H25. 3.18	化学工学会 化学工学会研究賞	大学院工学研究科教授	本多 裕之	
H25. 3.18	化学工学会 内藤雅喜記念賞	大学院工学研究科教授	本多 裕之	
H25. 3.18	化学コミュニケーション賞2012	大学院理学研究科准教授	山口潤一郎	
H25. 3.20	電子情報通信学会 学術奨励賞	エコトピア科学研究所助教	小林健太郎	
H25. 3.21	2012年度日本天文学会 林忠四郎賞	大学院理学研究科准教授	松原 隆彦	
H25. 3.22	日本化学会第93春季年会 「若い世代の特別講演証」	大学院理学研究科助教	荘司 長三	
H25. 3.24	Chemical Society of Japan Prizes, 2013 PCCP	物質科学国際研究センター 助教	瀬川 泰知	
H25. 3.24	日本化学会第93春季年会 「若い世代の特別講演証」	物質科学国際研究センター 助教	瀬川 泰知	
H25. 3.24	日本化学会第93春季年会 「若い世代の特別講演証」	大学院理学研究科助教	深澤 愛子	
H25. 3.25	日本農芸化学会 2012年度トピックス賞	革新ナノバイオデバイス 研究センター研究員	花井 陽介	
H25. 3.25	第62回日本化学会 進歩賞	大学院理学研究科准教授	山口潤一郎	
H25. 3.26	平成25年日本森林学会賞	大学院生命農学研究科 准教授	山田 容三	
H25. 3.27	平成24年度原子力学会バックエンド部会 業績賞	博物館教授	吉田 英一	
H25. 3.27	日本金属学会 第71回功績賞	エコトピア科学研究所 准教授	黒田 健介	
H25. 3.28	応用物理学会 プラズマエレクトロニクス分科会 第11回プラズマエレクトロニクス賞	プラズマナノ工学研究 センター特任教授	石川 健治	竹田圭吾 (大学院工学研究科助教)、 近藤博基 (大学院工学研究科准教授)、 関根 誠 (大学院工学研究科特任教授)、 堀 勝 (大学院工学研究科教授)と連名
H25. 4. 3	Best Paper Award, APAC-17 (Asia-Pacific Automotive Engineering Conference)	大学院工学研究科准教授	山本 和弘	
H25. 4. 4	Poster Award in Recognition of Most Impressive Presentation OTST 2013	大学院工学研究科助教	竹家 啓	
H25. 4.13	船井情報科学振興財団 平成24年度船井研究奨励賞	大学院工学研究科助教	安井 隆雄	
H25. 4.14	第72回日本医学放射線学会総会 教育展示優秀賞	大学院医学系研究科教授	長縄 慎二	山崎雅弘 (医学部附属病院病棟助教)、 川井 恒 (医学部附属病院助教)、 中島 務 (医学系研究科教授)と連名
H25. 4.15	BCSJ (Bulletin of the Chemical Society of Japan) Award	大学院工学研究科准教授	齋藤 徹	平出正孝 (名誉教授)と連名
H25. 4.16	超伝導科学技術研究会 第17回超伝導科学技術賞	大学院工学研究科准教授	佐藤 昌利	
H25. 4.19	第4回鮎川信夫賞詩論集部門	大学院文学研究科教授	坪井 秀人	
H25. 4.19	日本統合失調症学会 第4回学術賞 優秀賞	大学院医学系研究科客員研 究員	久島 周	
H25. 4.19	2012年度日本機械学会 日本機械学会奨励賞	大学院工学研究科助教	寺島 修	
H25. 4.19	2012年度日本機械学会 日本機械学会賞	大学院工学研究科教授	社本 英二	
H25. 4.22	耐火物技術協会 若林 (論文) 賞	大学院工学研究科教授	北 英紀	
H25. 4.25	新技術開発財団 第45回市村学術賞 貢献賞	大学院工学研究科教授	石原 一彰	
H25. 4.25	日本化学会第93春季年会 (2013) 優秀講演賞 (学術)	物質科学国際研究センター CREST 博士研究員	山田 哲也	
H25. 4.27	第101回日本泌尿器科学会 医療賞	大学院医学系研究科教授	後藤 百万	
H25. 5.10	日本腎臓学会ベストサイテーション賞	大学院医学系研究科准教授	榎本 篤	
H25. 5.16	Lu Jiaxi Lectureship	大学院工学研究科教授	馬場 嘉信	
H25. 5.17	鹿島美術財団賞優秀者	大学院文学研究科教授	伊藤 大輔	
H25. 5.17	日本材料学会 第236回複合材料部門委員会 奨励賞	大学院工学研究科助教	細井 厚志	
H25. 5.17	リモートセンシング学会優秀論文発表賞	大学院環境学研究科研究員	縫村 崇行	藤田耕史 (環境学研究科准教授)、 竹中修平 (環境学研究科研究員)、他3名と 連名
H25. 5.23	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス 講演会2012 パストプレゼンテーション表彰	大学院工学研究科助教	丸山 央峰	

受章者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H25. 5.23	平成24年度 化学とマイクロ・ナノシステム学会 若手優秀賞	大学院理学研究科特任講師	新田 英之	
H25. 5.24	電気設備学会 中部支部賞	大学院工学研究科准教授	横水 康伸	
H25. 5.25	第19回社会政策学会奨励賞	大学院経済学研究科教授	福澤 直樹	
H25. 5.25	日本表面科学会 第18回日本表面科学会 功績賞	グリーンモビリティ連携 研究センター教授	元廣 友美	
H25. 5.25	日本生化学会中部支部奨励賞	エコトピア科学研究所講師	神谷由紀子	
H25. 5.29	2013年度日本神経学会賞	環境医学研究所教授	山中 宏二	
H25. 5.30	高分子学会 平成24年度高分子研究奨励賞	大学院工学研究科助教	野呂 篤史	
H25. 5.30	高分子学会 平成24年度高分子学会賞	大学院工学研究科教授	関 隆広	
H25. 5.30	第66回 中日文化賞	大学院理学研究科教授	松本 邦弘	
H25. 5.30	第2回新化学技術研究奨励賞	物質科学国際研究センター 助教	瀬川 泰知	
H25. 5.30	電気学会電気学術振興賞論文賞	エコトピア科学研究所教授	早川 直樹	
H25. 5.30	電気学会電気学術振興賞論文賞	エコトピア科学研究所教授	花井 正広	
H25. 6. 1	日本木材青壮年団体連合会主催 第16回(平成24年度)木材活用コンクール 第4部門(ランドスケープ・インсталレーション 部門)賞	—	都市の木質化 プロジェクト	プロジェクト(学外者含む)にて団体受賞 村山頭人(環境学研究所准教授)、 古川忠稔(環境学研究所准教授)、 他6名と連名
H25. 6. 8	第10回泌尿器科再建再生研究会賞	大学院医学系研究科准教授	山本 徳則	
H25. 6.14	平成24年度土木学会論文賞	高等研究院特任講師	中村 友昭	水谷法美(工学研究科教授)と連名

事務職員・技術職員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H25. 3.29	第90回日本生理学会大会 佐川喜一賞	環境医学研究所研究支援 推進員	丹羽 良子	榎山泰規(環境医学研究所D4)、 本荘晴朗(環境医学研究所准教授)、 神谷香一郎(環境医学研究所教授)、 他2名と連名

学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H22. 6.22	Excellent Presentation Awards, 43rd Annual Meeting for the Japanese Society of Developmental Biologists	大学院理学研究科 M1	菅沼 貴也	
H23. 6.18	第8回日仏海洋学会論文賞	大学院環境学研究科修了生	アンドレアス アルベルティノ フタハエアン	
H24. 3.28	2012年度日本海洋学会春季大会 ベストポスター賞	地球水循環研究センター 研究生	シュ キアン	
H24. 9. 1	高分子学会東海支部 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 D2	堤嶋 佳生	
H24. 9. 1	高分子学会東海支部 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M1	澤木 大輝	
H24.10.26	日本生物工学会 セルプロセス計測評価 研究部会 第64回日本生物工学会大会 優秀学生発表賞	大学院工学研究科 M2	松本 恵	
H24.12. 2	森林利用学会学生優秀論文発表賞	大学院生命農学研究科 M2	西島 麻衣	
H24.12.10	高分子学会 第43回中部化学関係学協会支部 連合秋季大会 東海高分子優秀学生発表賞	大学院工学研究科 M2	土肥 侑也	
H24.12.14	ICOME2012/計算数理工学シンポジウム2012 日本計算数理工学会講演賞	大学院工学研究科 D3	高 海峰	
H24.12.14	Young Scientist Poster Award, The Society of Polymer Science, JAPAN (IPC2012)	大学院工学研究科 M2	樋口 康太	
H24.12.20	第13回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 SI2012優秀講演	大学院工学研究科 M2	松井 健哉	岡本正吾(大学院工学研究科助教)、 山田陽滋(大学院工学研究科教授)と連名
H25. 1.10	Annual Research Award, IGER Annual Meeting 2012	大学院工学研究科 D2	中谷 裕次	

受章者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H25. 1.10	Annual Research Award, IGER Annual Meeting 2012	大学院理学研究科 D1	一瀬 瑞穂	
H25. 1.10	Poster Award, IGER Annual meeting 2012	大学院工学研究科 D1	村山 恵司	
H25. 1.10	Poster Award, IGER Annual meeting 2012	大学院工学研究科 D1	林 幹大	
H25. 1.22	平成24年度電気関係学会東海支部連合大会奨励賞	工学部4年	須崎 修平	
H25. 1.22	平成24年度電気関係学会東海支部連合大会電気学会 優秀論文発表賞 B賞	大学院工学研究科 M1	水野龍之介	
H25. 1.22	平成24年度電気関係学会東海支部連合大会IEEE 名古屋支部学生奨励賞	大学院工学研究科 M1	服部 晋悟	
H25. 1.22	平成24年度電気関係学会東海支部連合大会IEEE 名古屋支部学生奨励賞	大学院工学研究科 M2	中野 龍之	
H25. 1.25	電気学会 平成24年 電子・情報・システム部門技術委員会奨励賞	大学院工学研究科 M1	牧野 裕太	
H25. 1.25	名古屋産業振興公社 平成24年度学生ビジネスアイデア 努力賞	大学院工学研究科 M1	樺山 晴也	松本 恵 (大学院工学研究科 M2)、伊藤充則 (大学院工学研究科 M2) と連名
H25. 1.27	The Best Student Award, The 16th International Workshop of Advanced Plasma Processing and Diagnostics	大学院工学研究科 D2	下枝 弘尚	
H25. 2.13	日本塑性加工学会 第63回塑性加工連合講演会 優秀論文講演奨励賞	大学院工学研究科 M1	中嶋 芳宏	
H25. 2.23	第1回 HSS デザインコンテスト実行委員会 HSS Design Award 優秀賞	大学院工学研究科 M1	佐溝 恵里	吉川大弘 (大学院工学研究科准教授)、古橋 武 (大学院工学研究科教授) と連名
H25. 3. 1	Best Paper Award, The Sixth International Conference on Advances in Computer-Human	大学院情報科学研究科 D3	塩見 友樹	小蔦健二 (大学院情報科学研究科 D1)、上本啓太 (大学院情報科学研究科 M2)、宮尾 克 (大学院情報科学研究科教授) と連名
H25. 3. 1	公益社団法人・計測自動制御学会 第20回リモートセンシングフォーラム優秀賞	大学院環境学研究科 M2	小畑 敦史	
H25. 3. 5	電子情報通信学会東海支部 平成24年度卒業研究発表会口頭発表部門 最優秀卒業研究発表賞	工学部 4年	谷繁龍之介	
H25. 3. 5	電子情報通信学会東海支部 平成24年度卒業研究発表会口頭発表部門 優秀卒業研究発表賞	工学部 4年	細野 峻司	
H25. 3. 5	平成24年度電子情報通信学会東海支部 卒業研究発表会口頭発表部門 優秀卒業研究発表賞	工学部 4年	神野 雄人	
H25. 3. 5	平成24年度電子情報通信学会東海支部 卒業研究発表会口頭発表部門 優秀卒業研究発表賞	工学部 4年	須崎 修平	
H25. 3. 5	電子情報通信学会東海支部 平成24年度卒業研究発表会ポスター発表部門 優秀卒業研究発表賞	工学部 4年	田ノ上大志	
H25. 3. 6	情報処理学会第74回全国大会 大会奨励賞	大学院情報科学研究科 D3	田中 勇真	柳浦睦憲 (大学院情報科学研究科教授)、今堀慎治 (大学院工学研究科准教授) と連名
H25. 3. 8	情報処理学会 第75回全国大会 学生奨励賞	工学部 4年	岩月 厚	
H25. 3. 8	情報処理学会 第75回全国大会 学生奨励賞	工学部 4年	大塚 嗣巳	
H25. 3. 9	日本オペレーションズ・リサーチ学会中部支部 第40回研究発表会最優秀賞	情報文化学部 4年	深津 翔	胡 艶楠 (大学院情報科学研究科 M2)、橋本英樹 (大学院情報科学研究科助教)、柳浦睦憲 (大学院情報科学研究科教授) と連名
H25. 3. 9	日本オペレーションズ・リサーチ学会中部支部 第40回研究発表会優秀賞	大学院情報科学研究科 M1	小嶋 拓哉	胡 艶楠 (大学院情報科学研究科 M2)、橋本英樹 (大学院情報科学研究科助教)、柳浦睦憲 (大学院情報科学研究科教授)、他2名と連名
H25. 3.12	フォトニックネットワーク研究会 第9回フォトニックネットワーク研究会学生ワークショップ ショートプレゼンテーション賞	大学院工学研究科 M1	小坂 駿	
H25. 3.21	Best Paper Presentation Award, 2012 IEEE DEIS Japan Chapter Student	大学院工学研究科 M2	中野 裕介	
H25. 3.21	電気学会優秀論文発表賞 A賞	大学院工学研究科 M1	大竹 泰智	

受章者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H25. 3.22	第62回理論応用力学講演会 優秀講演賞	大学院工学研究科 D3	高 海峰	松本敏郎（大学院工学研究科教授）、高橋 徹（大学院工学研究科講師）、飯盛浩司（大学院工学研究科助教）と連名
H25. 3.23	Thieme Nagoya Symposium 2013 SYNFACTS Poster Prize	大学院工学研究科 D1	笹倉 新葉	
H25. 3.25	日本設計工学会 武藤栄次賞優秀学生賞	大学院工学研究科 M2	大脇 浩史	
H25. 3.25	名古屋大学総長顕彰	大学院工学研究科 M1	呉 瓊	
H25. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	土居 哲也	
H25. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	工学部 4年	伊藤 杏奈	
H25. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	工学部 4年	兼田 祥	
H25. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	中島 雅晶	
H25. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	理学部 4年	水野 麻人	
H25. 3.25	日本機械学会 三浦賞	大学院工学研究科 M2	安田 英将	
H25. 3.25	平成24年度優秀学位論文賞	大学院理学研究科 M2	國松 辰弥	
H25. 3.26	日本原子力学会 フェロー賞	工学部 4年	夏目 裕基	
H25. 3.26	第124回日本森林学会大会学生ポスター賞	農学部 4年	西村 朋也	梶村 恒（大学院生命農学研究科准教授）と連名
H25. 3.27	第124回日本森林学会大会学生ポスター賞	大学院生命農学研究科 M1	大脇 琴美	梶村 恒（大学院生命農学研究科准教授）、他1名と連名
H25. 3.28	日本鉄鋼協会 平成24年度第17回計測・制御・システム工学部会 計測・制御・システム研究賞	大学院工学研究科 M2	渡邊 敏章	
H25. 3.28	日本原子力学会 計算科学技術部会賞 部会学生優秀講演賞	大学院工学研究科 M1	恒吉 達矢	
H25. 3.28	日本金属学会優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	榊原 正男	黒田健介（エコトピア科学研究所准教授）、興戸正純（エコトピア科学研究所教授）と連名
H25. 4.14	第69回日本放射線技術学会総会学術大会 金賞	大学院医学系研究科 M2	沼元 瞳	
H25. 4.18	日本化学会第93春季年会 学生講演賞	大学院工学研究科 D3	山口 龍一	
H25. 4.18	日本化学会第93春季年会 学生講演賞	大学院工学研究科 D3	中谷 裕次	
H25. 4.18	日本化学会第93春季年会 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	大町 遼	
H25. 4.18	日本化学会第93春季年会 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	名倉 和彦	
H25. 4.18	日本化学会第93春季年会 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	毛利 和弘	
H25. 4.18	日本化学会第93春季年会 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	櫛田 知克	
H25. 5. 9	平成24年度電子情報通信学会 ソフトウェアサイエンス研究会 研究奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	安藤 聡	酒井正彦（大学院情報科学研究科教授）、坂部俊樹（大学院情報科学研究科教授）、草刈圭一朗（大学院情報科学研究科准教授）、西田直樹（大学院情報科学研究科准教授）と連名
H25. 5.21	日本顕微鏡学会第69回学術講演会 優秀ポスター賞 [装置・手法系]	大学院工学研究科 M2	池田 宇輝	丹司敬義（エコトピア科学研究所教授）、他1名と連名
H25. 5.24	化学とマイクロ・ナノシステム学会 第27回研究会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	新美 京	
H25. 5.25	分離技術会 平成25年度分離技術会年会 学生賞	大学院工学研究科 M1	高橋 彩	
H25. 5.25	分離技術会 平成25年度分離技術会年会 奨励賞	大学院工学研究科 M1	水野 文菜	
H25. 5.27	情報処理学会東海支部学生論文奨励賞	大学院情報科学研究科 D1	胡 艶楠	
H25. 5.30	電気学会 電気学術振興賞論文賞	大学院工学研究科 D1	脇本 亨	
H25. 6. 1	第3回高エネルギー物理 春の学校2013 優秀講演賞	大学院理学研究科 D3	有田 義宣	
H25. 6. 1	第3回高エネルギー物理 春の学校2013 特別賞	大学院理学研究科 D3	若林 潤	
H25. 6. 4	平成25年度名古屋大学学術奨励賞	大学院生命農学研究科 D2	大井 崇生	
H25. 6.11	平成24年度電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M1	須崎 修平	
H25. 6.11	平成24年度電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	楠本 博則	

*受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成25年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
1 本学が創薬や地震による津波の解析など幅広い研究に活用するため次期スーパーコンピュータを導入	5.16 (木) 5.21 (火)	中日 (朝刊) 日刊工業
2 現代日本誤百科 (801):「政策を総動員」する 町田 健文学研究科教授	5.16 (木)	中日 (朝刊)
3 生源寺眞一生命農学研究科教授が農業政策について語る	5.16 (木)	朝日 (朝刊)
4 第24回英国科学実験講座クリスマス・レクチャー2013開催: 8月18日 豊田講堂にて開かれる	5.16 (木)	読売
5 本学などが加盟する名古屋学生能楽連盟の発表会に7人で奮闘中の愛知教育大学の能楽部が出演	5.16 (木)	朝日 (朝刊)
6 高橋維朝さん本学3年生は痴漢被疑者の逮捕に貢献したとして東警察署から署長感謝状をおくられる	5.16 (木) 5.19 (日)	読売 中日 (朝刊)
7 大西卓哉 JAXA 宇宙飛行士講演会開催: 6月2日 第29回宇宙技術および科学の国際シンポジウムの併設事業	5.16 (木) 5.22 (水) 5.29 (水) 6. 3 (月)	読売 中日 (朝刊) 朝日 (朝刊) 中日 (朝刊) 読売
8 減災連携研究センターと名古屋都市センターは調べたい土地が災害に対しどのくらい危険かを表示するソフト「減災まちづくり情報システム」を開発	5.17 (金)	中日 (朝刊)
9 本学の前身旧制第八高等学校の同窓会の活動が取り上げられる	5.17 (金)	朝日 (朝刊)
10 荒山裕行経済学研究科教授と竹谷裕之本学名誉教授は安倍晋三首相が農林水産物の輸出と農家の所得を倍増すると発表したことについて語る	5.18 (土)	中日 (朝刊)
11 第31回「こころを育む総合フォーラム」開催: 17日 野依良治本学特別教授が出席	5.18 (土)	読売
12 第12回ヒメボタルサミット in 愛知開催: 26日 別所 学さん生命農学研究科大学院生が講演	5.18 (土)	朝日 (朝刊)
13 安倍晋三首相が国立大学改革について本学を含む8大学で定年退職する教員の減員分などで1500人の常勤ポストを外国人にすると表明	5.18 (土) 5.20 (日)	読売 日刊工業
14 新聞で学ぼう: 生命存在する星を求めて 福井康雄理学研究科教授が宇宙にある銀河の数について語る	5.19 (日)	中日 (朝刊)
15 本学のゼミも参加する中部経済学インターゼミの発表会にむけて学生達が研究に励んでいる様子が紹介される	5.19 (日)	中日 (朝刊)
16 書籍:「青い光に魅せられて」赤崎 勇本学特別教授	5.19 (日)	読売
17 第67回日本栄養・食糧学会大会市民公開講座「健康長寿」開催: 26日 下村吉治生命農学研究科教授が講演	5.19 (日)	中日 (朝刊)
18 医学部附属病院など災害拠点病院を中心に愛知県内6病院が災害時に電子カルテを相互に共有できるネットワークの運用を開始	5.20 (月) 5.21 (火)	読売 日経 (夕刊)
19 堀 勝工学研究科教授と NU エコ・エンジニアリング株式会社などは分子線エピタキシー法で窒化物半導体の結晶成長を5倍速でできる高密度な窒素原子発生装置を開発	5.20 (月)	日刊工業
20 備える3.11から 第69回率先避難⑤: 廣井 悠減災連携研究センター准教授	5.20 (月)	中日 (朝刊)
21 第4回「留学生の主張」日本語弁論大会: 19日 1位朱玄さん本学学生、3位臧千一さん本学学生	5.20 (月)	中日 (朝刊)
22 飯田喜四郎本学名誉教授は名古屋城本丸御殿の復元について「全てが当時の工法を用いたわけではなくても、文化や技術の継承という点で大きな意義がある」と語る	5.20 (月)	読売
23 紙つづて: グローバル化と国際化 野依良治本学特別教授	5.20 (月)	中日 (夕刊)
24 中部ライフガード TEC2013防災・減災・危機管理展開催: 24、25日 減災連携研究センターが出演	5.20 (月) 5.22 (水)	中日 (朝刊) 日刊工業
25 数理ウェーブ開催: 25日 大沢健夫多元数理科学研究科教授と小西正秀さん同大学院生が講演	5.21 (火)	中日 (朝刊)
26 エンタメモ: いぶし銀の歌から 男声合唱団 OB の活動が紹介される	5.21 (火)	中日 (夕刊)
27 鹿倉洋介環境学研究科研究機関研究員は南海トラフで巨大地震が起こる前には内陸部で逆断層型とみられる地震が多かったことを明らかにした	5.21 (火) 5.23 (木)	朝日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
28 論点: 不安定な農政 生源寺眞一生命農学研究科教授	5.22 (水)	読売
29 現代日本誤百科 (804): 犯人から送られた「疑いが強い」町田 健文学研究科教授	5.22 (水)	中日 (朝刊)
30 健康講演会「食中毒のお話」開催: 25日 太田美智男本学名誉教授が講演	5.22 (水)	読売
31 法科大学院の2013年度入試の状況で本学が取り上げられる	5.22 (水)	読売
32 第17回博物館特別展「くじら クジラ 鯨-骨からわかるからだの秘密 そして人とのかかわり-」特別講演会「鯨は六鯨と申し候: 太地における人とクジラの多様な関係」開催: 28日	5.22 (水)	中日 (夕刊)
33 博物館サテライト展示「三矢保永写真展-空 雲 光-」開催: 4月16日～6月14日	5.22 (水) 5.29 (水) 6. 5 (水)	朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊)
34 本学を含む全国11大学でつくる「RU11」が間接経費の増加を求める提言を発表	5.22 (水) 5.23 (木) 5.24 (金)	日経 (夕刊) 日刊工業 朝日 (朝刊)
35 現代日本誤百科 (805):「世論の受けねらい」町田 健文学研究科教授	5.23 (木)	中日 (朝刊)
36 本学が文部科学省の県境や国境をまたぐ地域の政策研究を目的とした「共同利用・共同研究拠点」の政策研究拠点として認可を受けていると紹介される	5.23 (木)	中日 (朝刊)
37 市民公開講座「最新のリウマチ治療-リウマチと上手につきあうために-」開催: 4月12日 石黒直樹医学部附属病院院長が講演	5.25 (土)	読売
38 朝日カルチャーセンター講座「磁場が織りなす宇宙と未来」開催: 9月7日、28日 講師 草野完也太陽地球環境研究所教授	5.26 (日)	朝日 (朝刊)
39 2013留学生就職・転職合同企業説明会開催: 25日 キム・ジャンディさん本学4年生は「日本の貿易会社で自分の実力を確かめたい」と語る	5.26 (日)	中日 (朝刊)
40 本学が村上春樹著「色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年」に登場していると紹介される	5.26 (日)	朝日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成25年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
41 伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授はカーボンナノチューブを狙った通りの太さで長くできる新たな合成法を開発	5.27 (月)	中日 (朝刊) 他2社
42 現代日本読百科 (806) : 完全に「解決したという対応」町田 健文学研究科教授	5.27 (月)	中日 (朝刊)
43 わが友わが母校 : 名古屋大学 株式会社テクノツリー代表取締役社長木下武雄氏本学卒業生	5.27 (月)	日刊工業
44 学習塾経営南 光雄氏本学卒業生が世界遺産として知られる韓国仏国寺に仏教美術書など約1万2千冊などを寄贈	5.27 (月)	朝日 (朝刊)
45 紙つづて : 科学者の英語力 野依良治本学特別教授	5.27 (月)	中日 (夕刊)
46 本学をはじめ政府のグローバル30に参加する8大学がインドやベトナムなどの海外事務所や各国の日本政府系施設に補助金を投入し海外の優秀な留学生の獲得に乗り出す方針を固めた	5.28 (火)	毎日 (朝刊)
47 山岡耕春環境学研究科教授が座長を務める有識者会議の調査部会は南海トラフで起きる地震について「確度の高い予測は困難」とする報告書をまとめた	5.29 (水)	読売 朝日 (朝刊)
48 学ぶ育む : 送り仮名で意味を区別 益川敏英本学特別教授のインタビュー記事の見出し「論文のコツ 後輩に教わる」が取り上げられる	5.29 (水)	読売
49 現代日本読百科 (807) : 「十分とは思っていない」町田 健文学研究科教授	5.29 (水)	中日 (朝刊)
50 チョーン・チュムナさん本学大学院生がカンボジアの農村から本学に留学するまでの経緯が紹介される	5.29 (水)	中日 (夕刊)
51 本学を含む全国11大学でつくる「RU11」が間接経費の増加を求める提言を発表したことについて解説	5.30 (木)	読売
52 学ぶ育む : 「国際バカロレア」について日本語カリキュラムの導入を目指す教育学部附属中・高等学校などが参加し全国計36の高校や学校法人が連絡協議会を設立し初会合が開かれた	5.30 (木)	読売
53 先進科学塾@名大開催 : 6月8、9日	5.30 (木) 6. 5 (水) 6. 9 (日)	読売 中日 (朝刊) 中日 (朝刊)
54 野依良治本学特別教授、益川敏英同特別教授、小林 誠同特別教授の手形モニュメントが名古屋市中区の広小路通に設置される	5.30 (木) 5.31 (金)	中日 (夕刊) 朝日 (朝刊) 他2社
55 第66回中日文化賞贈呈式開催 : 30日 松本邦弘理学研究科教授、小澤正直情報科学研究科教授に賞状と正賞、副賞が贈られた	5.31 (金)	中日 (朝刊)
56 きょう世界禁煙デー : 考えよう たばこの影響 社会保険中京病院呼吸器科部長野崎裕広氏本学卒業生	5.31 (金)	読売
57 第29回宇宙技術および科学の国際シンポジウム開催 : 6月2日～9日 大西卓哉 JAXA 宇宙飛行士講演会も6月2日に豊田講堂で行われる	5.31 (金)	読売
58 本学や京都大学、仁愛大学などの研究チームは群れの規模が大きく、複雑な社会を築く霊長類ほどまばたきの回数が多いことを突き止めた	6. 1 (土)	中日 (夕刊)
59 本学がミャンマーにセンターを開設することが取り上げられる	6. 2 (日)	読売
60 書籍 : 「漂うモダニズム」榎 文彦本学名誉博士著	6. 2 (日)	毎日 (朝刊)
61 松岡 信生物機能開発利用研究センター教授が開発した茎を強くする働きのある遺伝子を茎が細いコシヒカリに導入し弱点を克服したイネの研究が取り上げられる	6. 3 (月)	朝日 (朝刊)
62 主張 : 組み込みソフトの品質向上 山本雅基情報科学研究科特任教授	6. 3 (月)	日刊工業
63 現代日本読百科 (809) : 「暴力を一掃したことを打ち出す」町田 健文学研究科教授	6. 3 (月)	中日 (朝刊)
64 紙つづて : 科学技術とイノベーション 野依良治本学特別教授	6. 3 (月)	中日 (夕刊)
65 市民公開講座「最新のリウマチ治療ーリウマチと上手につきあうためにー」開催 : 2日 石黒直樹医学部附属病院長が講演	6. 3 (月)	中日 (朝刊)
66 現代日本読百科 (810) : 「時間短縮でお送りしています」町田 健文学研究科教授	6. 4 (火)	中日 (朝刊)
67 東海地震予知、なぜ「困難」前兆すべし 有効性に疑問 Q&A : 山岡耕春環境学研究科教授が座長を務める有識者会議の調査部会が事前予知は難しいとの報告書をまとめた	6. 4 (火)	日経 (朝刊)
68 愛敬浩二法学研究科教授は中日新聞が実施した集団的自衛権のイメージに関する世論調査の結果について分析	6. 4 (火)	中日 (朝刊)
69 第66回中日文化賞 祝賀会 : 5月30日 松本邦弘理学研究科教授、小澤正直情報科学研究科教授が出席	6. 4 (火)	中日 (朝刊)
70 いまドキッ！大学生 : 大学グッズ花盛り 名古屋大学消費生活共同組合の名大グッズが紹介される	6. 4 (火)	中日 (朝刊)
71 巽 和行物質科学国際研究センター特任教授が会長を務める国際純正・応用化学連合が創設した「2013 ディスティングイッシュット・ウーマン・イン・ケミストリー/ケミカル・エンジニアリング」に東北大学教授栗原和枝氏が選ばれた	6. 4 (火)	日刊工業
72 荒川宜親医学系研究科教授は新型耐性遺伝子 OXA48を持つ病原菌が日本で初めてみつかったことについて「海外で医療行為を受け、帰国後に具合が悪くなった人は診察を受ける際、そのことを医師に伝えることが重要だ」と語る	6. 4 (火)	朝日 (夕刊)
73 中京って？第2部② : 合理的な地元志向 濱口総長の入学式の式辞や田財里奈さん理学部3年生のコメントが紹介される	6. 5 (水)	読売
74 現代日本読百科 (811) : 「花が劣化」する 町田 健文学研究科教授	6. 5 (水)	中日 (朝刊)
75 第22回理学懇話会「素粒子物理の7月革命ー記号ヒッグス粒子発見ー」開催 : 8日 久野純治理学研究科教授、戸本 誠同准教授が講演	6. 5 (水) 6. 9 (日)	中日 (朝刊) 中日 (朝刊)
76 戦略拠点 : 再生の鍵「ものづくり」濱口総長	6. 6 (木)	読売
77 現代日本読百科 (812) : 「手応えをもつ」町田 健文学研究科教授	6. 6 (木)	中日 (朝刊)
78 コラム発信箱 : 無過失補償 内田 良教育発達科学研究科准教授の研究が紹介される	6. 6 (木)	毎日 (朝刊)
79 医学系研究科は汎発性膿疱性乾癬と網状肢端色素沈着症の採血による遺伝子検査を医学部附属病院で開始	6. 7 (金)	中日 (朝刊)
80 山本理事は文部科学省が大学入試センター試験の代わりに年数回実施する「到達度テスト」を導入する方針について「現状のセンター試験でも負担は大きい。これが仮に3倍になれば、大学教育や研究活動にも影響が出る」と語り、中嶋哲彦教育発達科学研究科教授は「(高校生が) いつも試験対策に追われ、深く学ぶ時間がなくなってしまう」と語る	6. 7 (金)	中日 (朝刊)

記事	月日	新聞等名
81 田所光男国際言語文化研究科教授は文部科学省が創設を検討する「到達度テスト」の参考になっているとされるフランスの大学入学資格試験「バカロレア」について「学生は試験の点数に応じて大学を選んでいる」と語る	6. 7 (金)	中日 (朝刊)
82 河野通浩医学系研究科講師などの研究グループは「網状肢端色素沈着症」の原因となる遺伝子を特定	6. 9 (日)	毎日 (朝刊)
83 災害対策室と日興産業株式会社が協力して地震による本の落下防止用品「BOOK 落とさん棒」を開発	6. 9 (日)	毎日 (朝刊)
84 博物館友の会10周年総会開催：8日 記念のコンサートも行われた	6. 9 (日)	中日 (朝刊)
85 航空宇宙フェア2013開催：8、9日 本学が出展	6. 9 (日)	中日 (朝刊)
86 崩れた砦④：弁護士不正 対策に苦慮 加藤雅信本学名誉教授が後見業務を行う弁護士を少人数グループの登録制とし、被害が生じた場合は仲間内で連帯保証する枠組みを提唱	6. 9 (日)	読売
87 紙つぶて：スパコンが見る未来 野依良治本学特別教授	6.10 (月)	中日 (夕刊)
88 本学や愛知県立大学、トヨタ自動車株式会社など自動車の安全技術の確立を目的とした産学官連携組織「自動車安全技術プロジェクトチーム」を発足すると愛知県知事大村秀章氏が発表	6.11 (火)	日経 (朝刊)
89 現代日本誤百科 (814)：毎日「話題をされている」町田 健文学研究科教授	6.12 (水)	中日 (朝刊)
90 シリーズ「日米同盟と原発」：仁科浩二郎本学名誉教授がご尊父の故仁科芳雄氏について語り、沢田昭二同名誉教授が故広島大学教授三村剛昂氏について語る	6.12 (水)	中日 (朝刊)
91 本学が参加する自動車の安全技術の確立を目的とした産学官連携組織「自動車安全技術プロジェクトチーム」の初会合が開かれた	6.13 (木)	読売
92 現代日本誤百科 (815)：「女性活用がガラパゴス化」町田 健文学研究科教授	6.13 (木)	中日 (朝刊)
93 本学や東京大学など全国の国立大学附属病院の病院長で構成する国立大学附属病院長会議は東日本大震災で医療支援が十分に役割を果たせなかった教訓を踏まえ、各国立大学病院と地域病院の医療ネットワークを構築	6.15 (土)	中日 (朝刊)

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容	
3月25日(月)～7月20日(土) 場 所：博物館2階展示室 時 間：10:00～16:00 休 館 日：日・月曜日 入 場 料：無料	第17回博物館特別展 「くじら クジラ 鯨—骨からわかるからだの秘密 そして人とのかかわり— 内 容：2009年に名古屋港に漂着したマッコウクジラの骨格標本と制作過程の写真や映像、江戸時代の捕鯨で使われた道具の展示	
[問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767		
5月21日(火)～9月13日(金) 場 所：附属図書館 医学部分館2階入口ホール 時 間：9:00～20:00(平日) (8/8～9/13の平日は9:00～17:00)、 13:00～17:00(土曜日) 休 館 日：日・祝日、 8月15日、16日、26日～30日、 8月10日～9月7日の土曜日 入 場 料：無料	附属図書館医学部分館 第4回ミニ展示会 「珍品・逸品・新収品—医学部史料室の最近の 収藏品から—	
[問い合わせ先] 附属図書館医学部分館 052-744-2505		
7月12日(金)～19日(金) 場 所：博物館展示室(3階回廊) 時 間：10:00～16:00 休 館 日：日・月曜日 入 場 料：無料	博物館写真展 「みちのく森の絆 —東日本震災復興応援 いがりまさし作品展—	
[問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767		

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

7月19日(金)

場 所：環境総合館 1階レクチャーホール
 時 間：18:00～19:30
 定 員：120名
 対 象：一般
 参 加 費：無料

第92回防災アカデミー

講演題目：「聞こえない音を聴く－気圧を測ると津波も分かる?－」
 講 演 者：新井伸夫氏（日本気象協会参与）
 内 容：災害と気象



[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

7月19日(金)

場 所：文系総合館 7階オープンホール
 時 間：16:00～18:00
 定 員：30名
 対 象：本学および近隣の大学関係者
 参 加 費：無料

**高等教育研究センター
 第117回招へいセミナー**

講演題目：「主体的な学びを促すカリキュラム・デザインとは
 －FDの課題とIRの可能性－」
 講 演 者：山田剛史氏（愛媛大学准教授）
 内 容：学生の主体的な学びを促すためのカリキュラムの実態はどの
 ようになっているのか、FDの課題やIRの可能性を含め議論を
 深めていく



[問い合わせ先]

高等教育研究センター 052-789-5696

7月22日(月)、8月24日(土)

場 所：博物館実験室、展示室
 東山キャンパス構内
 時 間：10:00～15:30
 定 員：各20名
 対 象：小学5年生以上、一般
 参 加 費：50円（保険料）

ミクロの探検隊®

「名古屋大学のムシを電子顕微鏡で観察しよう！」

テ ー マ：「観察園のムシ」(7/22)、「雑木林のムシ」(8/24)



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

7月23日(火)

場 所：情報基盤センター 4階演習室
 時 間：13:00～14:30
 定 員：40名
 対 象：一般

平成25年度第4回情報連携統括本部公開講演会・研究会

講演題目：「サイバー空間を取りまく環境の変化と今後のセキュリティ対策及び
 研究開発の方向性」
 講 演 者：大久保一彦氏
 (NTTセキュアプラットフォーム研究所プロジェクトマネージャ)

[問い合わせ先]

情報推進部情報推進課 052-789-4368

**7月25日(木)、26日(金)、29日(月)、
 8月26日(月)**

場 所：環境総合館 1階レクチャーホール、
 ES総合館 1階ESホール、ES会議室
 時 間：9:45～16:00
 対 象：参加校の高校生
 参 加 費：無料

高校生防災セミナー

内 容：愛知県内の高校生を対象とした防災人材育成のためのセミナー

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

7月27日(土)～8月24日(土)

場 所：豊田講堂 他
 時 間：9:15～17:00
 定 員：500名
 参 加 費：3,000円～（企業防災コース除く、
 オプション追加あり）

平成25年度防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」

講 演 者：福和伸夫（減災連携研究センター教授）、
 山岡耕春（環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授）、
 栗田暢之氏（特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事）、他
 内 容：防災概論、自然災害概論などの防災基礎研修

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

7月29日(月)

場 所：農学部講義棟1階第7講義室
時 間：15:30~17:00
対 象：一般
参 加 費：無料

農学国際教育協力研究センター
2013年度第2回オープンセミナー

講演題目：「アフリカにおけるイネいもち病害に対する
安定的防除体系開発に向けて」
講演者：福田善通氏
(国際農林水産業研究センタープロジェクトリーダー)



[問い合わせ先]

農学国際教育協力研究センター
教授 浅沼修一 052-789-4232

7月29日(月)

場 所：文系総合館7階オープンホール
時 間：16:00~18:00
定 員：30名
対 象：本学および近隣の大学関係者
参 加 費：無料

高等教育研究センター
第66回客員教授セミナー

講演題目：「大学教育における学習評価の構図
—パフォーマンス評価を中心に—」
講演者：松下佳代氏 (京都大学教授)



[問い合わせ先]

高等教育研究センター 052-789-5696

7月31日(水)、8月1日(木)

場 所：年代測定総合研究センター
時 間：9:30~17:00
定 員：20名
対 象：小学5年生から中学生
(保護者同伴可)
参 加 費：無料 (別途保険代必要)

年代測定総合研究センター
夏休み特別企画「年輪年代法体験学習」

内 容：木材加工と年輪の精密測定を通して年代決定のしくみを
理解する



[問い合わせ先]

年代測定総合研究センター事務局
052-789-2579

8月2日(金)

場 所：齋藤永宏研究室 (グリーンビークル
材料研究施設3階305室)、他
時 間：10:00~16:15
定 員：20名
対 象：小学5年生、6年生
(可能であれば保護者同伴)
参 加 費：無料

日本学術振興会連携事業
ひらめき☆ときめきサイエンス
～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI

テ ー マ：「生物の『すごい』を顕微鏡でのぞいてみよう
—水がコロコロころがる表面—」
内 容：特殊な顕微鏡でハスの葉の表面を観察し、生物の「すごい」の
源について一緒に考える



[問い合わせ先]

グリーンモビリティ連携研究センター
助教 上野智永 052-789-5163

8月2日(金)

場 所：IB 電子情報館 他
定 員：約36名
対 象：愛知県及び近隣の高校生
参 加 費：無料 (保険料・昼食費込み)

テクノフロンティアセミナー (TEFS2013)
一触れてみよう, 電子と情報の最先端にー

内 容：実験を通して大学の教員や学生と交流することで電気・情報の
分野に興味を持ってもらう



[問い合わせ先]

工学部電気系教室内 TEFS 実行委員会
寄附研究部門准教授 小島寛樹
052-789-5874

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月6日(火)

場 所：工学研究科 1号館、
工学研究科 7号館実験棟、
高効率エネルギー変換研究施設東館
時 間：8:45～16:00
定 員：約20名
対 象：東海地区の高校生
参 加 費：無料

2013年化学・生物実験講習会 「大学の化学を体験しよう！」

内 容：講義と最新の設備による体験学習を通して教員や大学院生と
直接ふれあい、大学で化学・生物学を学ぶ面白さを体験する



[問い合わせ先]

工学部化学・生物工学科
化学・生物実験講習会実行委員会
hatano@nubio.nagoya-u.ac.jp

8月6日(火)～10月19日(土)

場 所：博物館 2階展示室、
野外観察園セミナーハウス
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日（博物館）、
土・日曜日（セミナーハウス）、
8月15日～19日
入 場 料：無料

第27回博物館企画展 「本物？作り物？ロウ細工？ 教育標本ムラージュ」

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

8月7日(水)

場 所：IB 電子情報館 2階 IB 大講義室
時 間：13:00～17:00

平成25年度工学部懇話会

テ ー マ：「名大工学部の求める学生像」

[問い合わせ先]

工学部・工学研究科教務課 052-789-3599

8月7日(水)～9日(金)

場 所：豊田講堂 他
時 間：9:30～17:00
参 加 費：無料

2013年度オープンキャンパス

内 容：大学紹介、施設見学、学生生活あれこれ、女性研究者からの情報発信、
在学生との対話など様々なプログラムを用意

8/7 教育学部、経済学部、工学部

8/8 法学部、医学部医学科、農学部

8/9 文学部、情報文化学部、医学部保健学科（大幸キャンパス）、理学部

[問い合わせ先]

学務部入試課 052-789-5765

8月8日(木)

場 所：カフェフロンテ
時 間：18:00～19:30
定 員：50名
対 象：一般
参 加 費：無料（会場にてドリンク等の注文が必要）

第27回げんさいカフェー Gen Science Café

テ ー マ：「研究者と市民とが対話するサイエンスカフェ」

講 演 者：近藤ひろ子（減災連携研究センター技術補佐員）

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

名大トピックス No.242 平成25年7月16日発行

編集・発行／名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601）

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

表紙

第54回名大祭「後夜祭」の

様子

（平成25年6月9日）



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
（<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>）でもご覧いただけます。

135 名古屋大学と外国人留学生 — 国際色豊かな学風へ —

現在、名大では大学院を中心に1,649人の外国人留学生が学んでいます。ここ数年、留学生の数が著増しているのは、名大がいわゆる「グローバル30」の拠点として採択され、「名古屋大学から Nagoya University へ」を掲げて、留学生の受け入れをとくに推進しているためです。そして、こうした事業の基礎になったのが、これまでの名大が留学生を多く受け入れてきた歴史です。

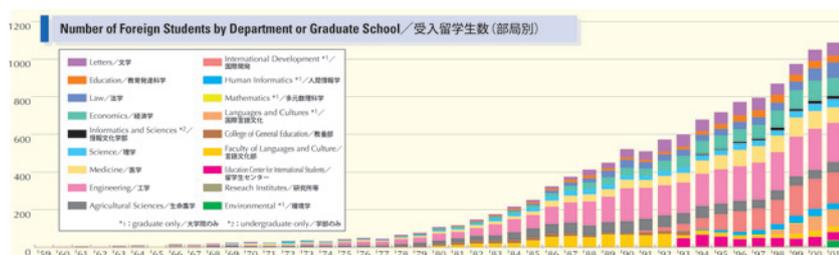
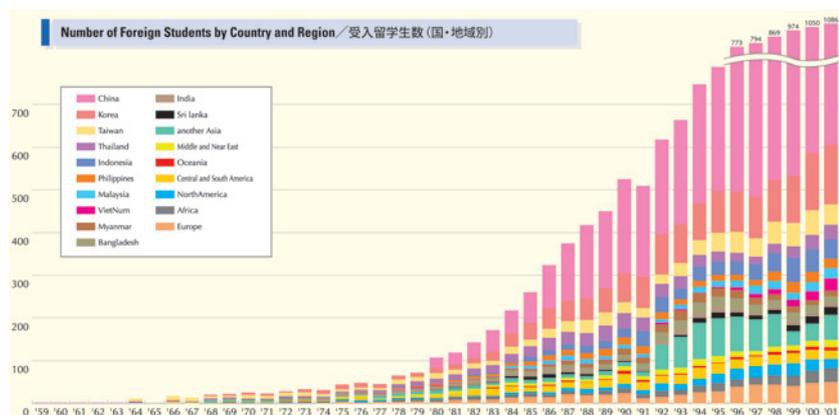
名大では、戦前の前身学校の時代から、多くの留学生が学んでいました。例えば、医学部の前身である愛知県立医学専門学校では、1913(大正2)年には本科全学生の約4.4%にあたる25名の留学生がいました。また、旧教養部の前身にあたる第八高等学校では、最も多い1923(大正12)年には全学生の約4%にあたる34名が留学生でした。

ただ、1939(昭和14)年に創立された名古屋帝国大学には、戦争をしていることもあり、留学生はほとんどいませんでした(日本国内とされた台湾や朝鮮の出身者は除く)。

戦後も、1960年代から少しずつ増えてはいたものの、1977年までは50人にも満たない状態でした。

それが一気に激増したのが1980年代です。その増加の多くを占めていたのが、72年に日本との国交を正常化し、改革開放路線の下、70年代末から西側諸国に多くの留学生を派遣するようになった中国(中華人民共和国)からの留学生でした。1990年には、留学生の約42%が中国人になりました。

1990年代に入っても増加の勢いは止まらず、2000年には1,000人を突破しました。部局別では、この時期に新設された大学院国際開発研究科や留学生センターによる増加が目につきます。21世紀に入ると、横ばいの状態がしばらく続きましたが、「グローバル30」によって再び飛躍的増加に転じ、2020年には3,000人、つまり名大生の5人に1人を留学生とする計画です。



- | | |
|---|---|
| 2 | 1 |
| 3 | 4 |
- 郁達夫文学碑(豊田講堂前)。中国近代文学の代表的作家である郁達夫は、1915年から19年にかけて第八高等学校で学び、その時のことをモデルにした作品も残している。
 - 名古屋大学の受け入れ留学生数の推移(国・地域別)
 - 名古屋大学の受け入れ留学生数の推移(部局別)
 - 2011年に竣工した留学生用宿舎、石田記念インターナショナルレジデンス妙見。かつては留学生を受け入れる施設や下宿がなく、学生部の職員が自宅を留学生の下宿として提供していた時代もあった。